

6. 卒業論文について（全学科共通）

【卒業論文の意義】

外国語文化学科・史学科・哲学科の学生は、大学における勉学と研究成果の総まとめとして、全員が4年次に卒業論文を提出しなければならない。その単位は卒業に要する専門教育科目必修単位中8単位と定められている。学生の自主性を重んじつつ、指導教員が個別に指導・助言に当たる。学生諸君はこの論文をまとめることによって、初めて自己の学問的な立場を確立し、将来の進路の基盤を得るのであるから、その意義の重要性を十分認識しなければならない。論文作成のあいだ終始積極的に指導教員の指導を受け、中間報告をすることが必要である。

日本文学科・中国文学科では、卒業論文は選択制である。卒論履修を選択した学生は、上記の他学科の学生同様、その意義を十分認識して提出しなければならない。なお、その単位は卒業に必要な専門教育科目中の8単位（中国文学科は、「卒業論文Ⅰ・Ⅱ」をあわせて8単位）と定められている。

【指導教員】

1. 論文の審査・評価にあたる教員は、各学科所属の専任教員（教授・准教授・専任講師・助教）とする。
 - ① 日本文学科においては、中国文学科の専任教員の指導を受けることができる。
 - ② 哲学科においては、文学部専任教員であれば学科以外の教員について指導を受けることができる。
 - ③ 外国語文化学科においては、文学部専任教員であれば指導を受けることができる。他の学部の教員より指導を受けることを希望する場合には、外国語文化学科の教務委員の了承を得ること。
2. 次に述べる第一次題目届提出前に、学科、専攻、または研究室別、あるいは教員別に卒業論文作成上のガイダンスを行うことがあるので、掲示に注意し、そうした機会には必ず出席して指導を受けること。

【題目届の提出】

卒業論文の題目届は、第一次（3年次）と第二次（4年次）の2回提出の必要があり、その時期は次に示すとおりである。（あらかじめ教務課から「題目届用紙・卒業論文指導カード」の交付を受け、指導教員の了承を得たうえ、指定の期限までに題目届を同課に提出しなければならない。「題目届用紙・卒業論文指導カード」は原則として再交付しないので、大切に保管すること）

題目届の未提出者は卒業論文を提出することができない。また、第一次題目届を提出しなかった者は、第二次題目届を提出する資格を失う。したがって、その時点で卒業延期が決定する。

なお、第二次題目届は、当該年度卒業見込みがない場合も、4年次に必ず提出すること。4年次に第二次題目を提出せず、実質1年以上の卒業論文指導を受けていない留年生の9月卒業は認められない。

- ・ 第一次題目届（3年次） 10月下旬 所定日
- ・ 第二次題目届（4年次） 7月上旬 所定日

【卒業論文指導カード】

第一次題目届提出前に「題目届用紙」とともに交付される「卒業論文指導カード」は、指導教員と学生用の2面に分かれている。このカードに必要な事項を記入のうえ、教員用は指導を受ける教員に提出し、学生用は各自が保持して、論文作成の期間中指導を受けるたびごとの記録とする。

学生は指導教員の指示に従って、定められた時期ごとに論文作成上の指導・助言を受け、論文提出時には、この学生用「卒業論文指導カード」を論文の表紙裏に貼付しなければならない。

【論文の用紙ならびに枚数・体裁（次ページ図参照）】

※ 変更される場合があります。案内に注意してください。

たて書き

1. 万年筆等（消せないもの）で手書きの場合（体裁A）B4判400字詰たて書用の原稿用紙（たて1行20字×20行）で50枚（中折り・裏表100ページ）以上とする。
2. パソコン等を使用する場合（体裁B）A4かB5の無地の用紙1ページ800字（例・40字×20行）の設定で25枚以上とする。（ホームページより書式ダウンロード可）

よこ書き

1. 万年筆等（消せないもの）で手書きの場合（体裁C）A4判400字詰よこ書き用の原稿用紙（よこ1行20字×20行）で50枚（50ページ）以上とする。
2. パソコン等を使用する場合（体裁D）A4無地の用紙1ページ800字（例・32字×25行）の設定で25枚以上とする。（ホームページより書式ダウンロード可）

※1 無地の用紙を使用する場合、本文の末尾に「(40字×20行=800字)」のように、1ページあたりの体裁を明記すること

※2 体裁A～Dのどれを選択するかは指導教員の指示に従うこと

※3 いずれの体裁の場合も、用紙の余白部にページ番号を振る（トビラは番号を振らない）こと

※4 外国語文化学科において原語を使用する場合には、A4判（27行）20枚以上とする。なお、書式については指導教員の指示に従うこと

【論文の提出期日】

1. 卒業論文の提出期限は、「卒業論文指導カード」に締切日・時間等が明記されているので、この期限を厳守して遅れることのないよう注意すること
2. 締切日・時間に遅れた論文、第二次題目届と異なる題目の論文、及び上記の論文の体裁・規格にはずれた論文は一切受理しない。

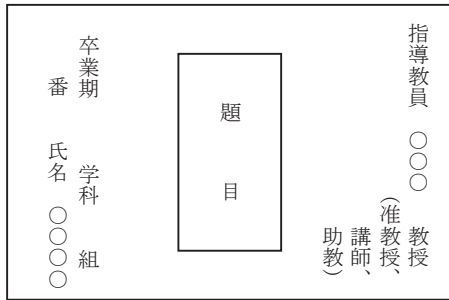
【体裁について】

※ 体裁A～Dの見本は教務課窓口・大学ホームページで参照のこと。

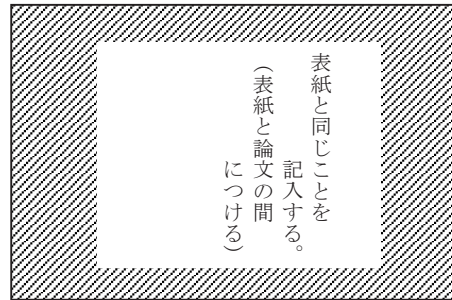
縦書きの場合（体裁A・体裁B）

—表紙— 表紙及びトビラは以下のように作成すること

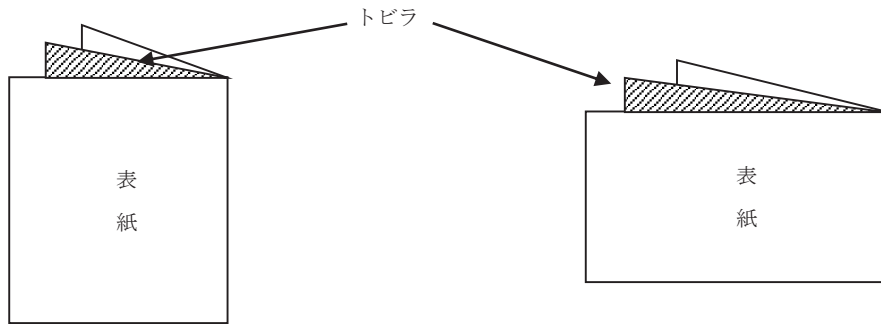
[表紙]



[トビラ]



—見本—

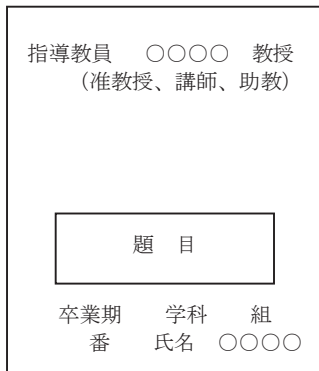


卒業期について：平成34年3月卒業見込みの場合は、卒業期は130期

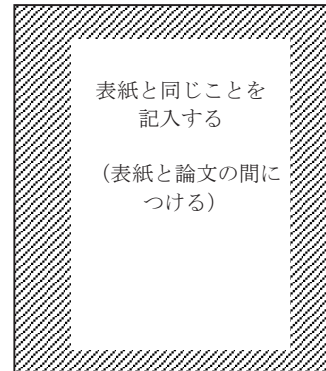
【横書きの場合（体裁C、体裁D）】

—表紙— 表紙及びトビラは以下のように作成すること

[表紙]



[トビラ]



—見本—

